

MINI MINIS

平成 26 年度鉱業博物館特別展

道が支えた阿仁鉱山 —米の道、炭の道、銅の道—

鉱業博物館で開催決定

期間：平成 27 年 3 月 3 日（火）～4 月 19 日（日）

会場：鉱業博物館 特別展示室

今井忠男教授による

ギャラリートーク

日時：平成 27 年 3 月 3 日（火）

13時30分から

会場：鉱業博物館 特別展示室

※聴講無料

どなた様でも聴講できます。
ぜひご参加ください。

阿仁郷土文化保存伝承館で平成 27 年 1 月 18 日（日）まで開催しておりました「道が支えた阿仁鉱山—米の道、炭の道、銅の道—」が、会場を鉱業博物館に移し、平成 27 年 3 月 3 日（火）から 4 月 19 日（日）まで開催されることになりました。

この展示は阿仁地域の産業活動を支えた輸送路に焦点を置き、阿仁の盛衰を探る企画です。江戸時代前半に金山が発見されたゴールドラッシュに沸いた時代から、銅の時代を経て、明治期の近代化による変貌など、時系列に沿って阿仁の歴史に触れることができます。

また、開始日となる 3 月 3 日（火）には、特別展の立案者である今井忠男秋田大学国際資源学部教授によるギャラリートークを開催します。阿仁郷土文化保存伝承館で開催した際は、多くの聴講者が訪れました。新聞などにも掲載され大盛況のうちに閉会することができました。秋田大学に場所を変えての展示となるこの機会にぜひ、秋田市のみならずも鉱業博物館に阿仁鉱山の歴史を見にいらしてください。



第5回鉱業博物館市民向け開放講座

News! 御嶽山 2014 年 9 月水蒸気噴火から世界の金属資源を考える



たくさんの聴講者に来館いただきました



御嶽山で採取した灰を顕微鏡で観察し、灰と似た性質を持つ岩石を当てるクイズが出題されました



質問する聴講者とそれに答える大場副館長

平成 27 年 2 月 12 日（木）、平成 26 年度第 5 回市民向け開放講座が開催されました。今回は「御嶽山 2014 年 9 月水蒸気噴火から世界の金属資源を考える」と題し、大場司 鉱業博物館副館長が講演しました。講演した大場副館長は火山学が専門で、火山の噴火の仕組みや火山の地下構造を研究しており、御嶽山噴火の調査にも加わりました。今回の講演では、御嶽山を調査した結果や火山の噴火の仕組み、金属資源生成と火山噴火との関係性についての講演でした。

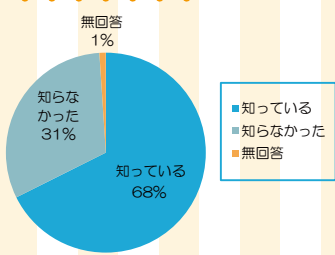
御嶽山調査の結果、御嶽山の火山灰は、金属鉱山の岩石にとても近い性質であることがわかりました。火山の地下では熱や圧力など様々な化学反応が常に起きています。今回の金属鉱床で出来やすい鉱物を含む火山灰が噴出してきたという事実から、御嶽山の地下に金属を多量に含む鉱床が育まれている可能性も指摘され

ました。講演では、火口から 6 km ほど離れた位置で採取した火山灰を顕微鏡で観察したうえで、3 つの岩石標本（金属鉱山の鉱石、ハワイの溶岩、霧島山の火山噴出物）のどれに似ているのか、クイズが出題されました。はじめは霧島山の火山噴出物と金属鉱山の鉱石との 2 つに票が割かれていましたが、先生の解説を納得した様子で聞き入っていました。

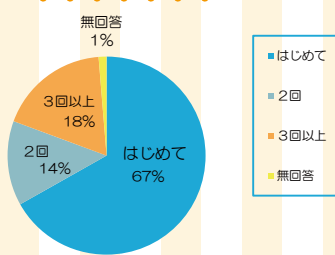
他にも世界の火山と鉱床の分布や、先生が実際に調査した火山のことも話されました。最後に、今回の噴火は多くの犠牲者を出し大変残念な結果になってしまったが、火山は怖いばかりでなく、私たちに資源やエネルギーをもたらしてくれる存在であることを知ってほしいと締めくくられました。

2014年鉱業博物館来館者アンケートの集計が終了しました！

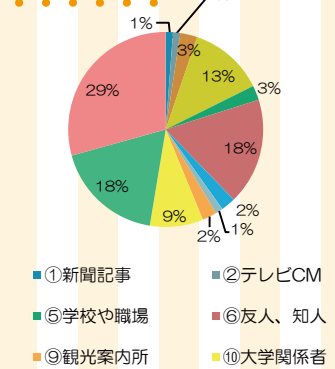
博物館の認知



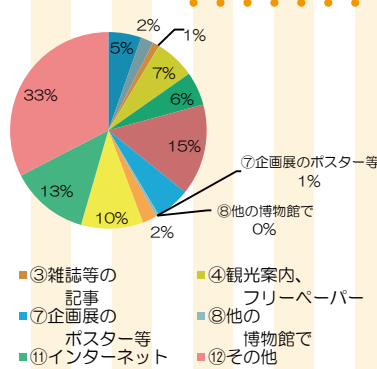
入館回数



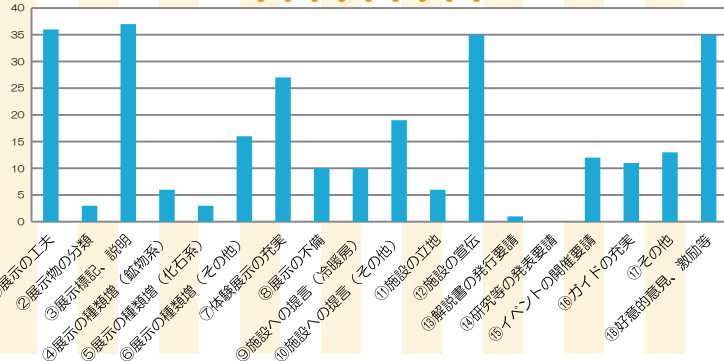
知ったきっかけ



来た動機



博物館へのご意見



2014年1月1日から12月31日までにご来館いただいた7415人のうち、当館のアンケートにお答えいただきました785名の回答を集計しました。ご協力、誠にありがとうございました。

今回の結果より、来館された方の3割が当館を知らなかった、そして、知り得たきっかけ・来館した動機がインターネットや知人からの紹介が多いということがわかりました。また、博物館へのご意見として、もっと博物館を宣伝してほしいというご意見が多くありました。宣伝に関しまして、当館では外部のイベントに参加したり、にぎわい交流館AUに出張展示を行うなど、宣伝活動を精力的に行っています。しかし、お客様には宣伝の効果を実感していただけていない状況であるということが伺えます。受動的にたくさんの方々に見ただけの新聞やテレビCMなどを用いた大々的な宣伝はできませんが、できる範囲で、当館を知ってもらえる努力を続けて参ります。

ご意見として多かったのが、展示の工夫や標記の仕方・説明に関してです。中でも鉱物・鉱石の用途や標本名にふりがなを振ってほしいというご意見が主でした。当館の標本は1階だけでも2,200点を数えるため時間がかかっておりますが、改善に取り組んでおります。

また、はじめて来館するという方が6割を占めました。当館は県内のみならず、遠く県外や海外から来館くださる方も非常に多いことも、はじめての方々が多い要因となっています。皆さんにまた来たいと思っていただけるよう、展示を工夫したり、特別展などの魅力ある行事をこれからも提供していきたいと考えています。

アンケート結果とご意見・ご要望にお答えした結果を2階休憩スペースに掲示してあります。ぜひご覧ください。来年度はアンケート内容を一新し、より一層、皆様の声を運営に反映できるよう励んでいく所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

鉱業博物館サイエンスボランティアを募集しています！



活動内容

見学者への案内と説明、見学サポート、館内整備等のサポートなど

活動期間

平成27年4月1日から平成28年3月31日までの一年間

募集対象

高校生以上の方であればなたでもご参加いただけます

募集期間

平成27年2月2日(月)～3月31日(火)

鉱業博物館では、平成27年度サイエンスボランティアを募集しています。

サイエンスボランティアは博物館の様々な活動に参加し、その運営をサポートします。活動内容には、豊富な知識を生かした展示案内や、団体見学時の誘導、子ども向けイベントの補助のほか、工作や情報分野の専門的な作業などがあります。

高校生以上の方であれば性別・職業を問わずなたでも参加できます。博物館が好きで何かに関わってみたい方、人と接する活動がしたい方、木工や電工、手先の器用さなど特技を活かしたい、社会貢献活動がしたい方のご応募を歓迎しております。

ボランティア活動のサポート体制も充実しています。鉱業博物館に関わりのある秋田大学教員・研究員が博物館や標本のことをわかりやすく解説する講習会や、関連施設や野外に出かけての研修会などを開催しています。得意な分野で、できる範囲で、活動してみませんか？お気軽にお問い合わせください。